



TITLE:

英國經濟政策ノ變轉期

AUTHOR(S):

河田, 嗣郎

CITATION:

河田, 嗣郎. 英國經濟政策ノ變轉期. 經濟論叢 1916, 2(4): 592-594

ISSUE DATE:

1916-04

URL:

<https://doi.org/10.14989/126988>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號四第

卷二第

論說

●雜稅ノ分析及其整理

●奢侈ト貧困

●てがゐるさひゆゑの經濟學說(三)

研究

●不換紙幣流通ノ根據ニ就テ

●保險ト偶然性

●本多利明ノ經濟說(三)

雜錄

●英國經濟政策ノ變轉期

●貧民ノ體力ニ就イテ

●英國ノ戰爭利得稅

●本邦私出產ノ死産

●歐洲各國ニ於ケル生活費ノ増加ニ對スル防止策

●郷土ノ經濟的研究

●所有權ノ起源

●紙幣ノ下落

●經濟學讀書會記事

●富田博士ヲ悼ム

法學博士 神戸 正雄

法學博士 河上 肇

法學博士 福田 德三

山口高等商業學校教授 作田 莊一

法學士 小島 昌太郎

講師 本庄 榮治郎

助教授 河田 嗣郎

講師 高田 保馬

法學博士 小川 郷太郎

教授 財部 靜治

助教授 山本 美越乃

法學博士 神戸 正雄

講師 本庄 榮治郎

法學博士 河上 肇

講師 高田 保馬

法學博士 織田 萬

雜誌

英國經濟政策ノ變轉期

助教授 河田 嗣郎

一 今回ノ大戰ニ因ツテ諸國ニ於ケル經濟政策ハ頗ル其ノ面目ヲ改メ來リツツアルコト、之ヲ事實ニ徴スルモ明カナル次第デアルガ、其ノ傾向ハ英吉利ニ於テ特ニ顯著ナルモノアルヲ否ムコトガ出來ヌ。即チ英國ニ在ツテハ近年多少經濟政策上ノ見解ガ變ツテ來、ちえむば！れんノ主張、統一黨ノ運動ノ行ハルルニ至ツテヨリハ、曩ノ自由貿易主義一點張ハ多少トモニ緩和セラレントスルノ傾向ガ出ジテ來テ居タガ、ソレデモ尙ホ自由貿易派ノ勢力ハ中々ニ強ク、自由黨内閣ガ出來テ以來既ニ十餘年ノ久シキヲ持シテ居ル所以ノモノハ、ヤハリ自由主義ノ地盤ノ多ク搖ガザルモノアルニ因ルト見ナケレバナラヌ。然ルニ一昨年ノ夏端無クモ大戰ノ爆發シテ以來ハ事情ハ俄カニ一變シ、自由貿易主義ハ到

底之ヲ貫徹スルニ由ナクシテ、今ヤ政府ハ事實ノ必要ニ逼ラレ否應ナシニ生産ノ方面ニ於テモ、交易ノ方面ニ於テモ將又消費ノ方面ニ於テモ、隨分立入りタル干涉政策ヲ取ラントスルニ立至ツタ様デアル。

英國ガ獨リ自由貿易主義ヲ執テ改メザルニ、獨逸其他ノ諸國ハ用意周到ナル保護政策ヲ採テ其ノ産業ヲ進メ貿易ヲ伸張シ來リタルガ爲メニ英國ハ頗ル其ノ壓迫ニ苦ミ、啻ニ海外貿易ニ於テ激烈ナル競争ヲ被リ販路ヲ奪ハレルノミナラズ、本國市場ニ於テスラ外國品特ニ獨逸品ナドノ侵襲ニ堪エ兼ねテ、近年デハ甚シク凌壓セラレ、或種ノ製品ノ如キハ全ク之ヲ舉ゲテ獨逸品ノ供給ニ仰ギ、殊ニ安價ナル雜貨品ノ如キハ其ノ市場ヲ開イテ之ヲ獨逸品ニ委シテシマツタ狀況トナツテ來テ居タ。然シ之ハ頗ル英國ノ苦痛トスル所デアツタカラ、何トカシテ之ニ備フルノ方策ヲ講ゼナクテハナラヌト云フコトハ、識者ト實際家トノ間ニ熱心ニ考ヘラレルニ至ツテ居タノデアル。其時ニ當ツテ、即チ將ニ一轉換ノ

行ハレザルヲ得ザルノ時機ニ當ツテ、今回ノ戰爭ハ突發シタノデアツテ、之ガ爲ニ事實ノ大イナル力ハ悠々ト議論ヲ戰ハスノ暇モアラセズ實際政策ノ變更ヲ行ハザルヲ得ザラシメタ。斯クテ今ヤ英國ニ在ツテハ其ノ政策ハ多少トモニ曩ノ金科玉條タル自由放任主義ヲ捨テテ隨分立入リタル干涉ヲ行ヒ、大體ノ傾向ニ於テ頗ル保護主義ニ傾キ、國民經濟ノ自給主義ノ高唱セラレ、農產物ト工業製品トニ於テ尙モ國內ニ需要スルダケノモノハ先ヅ之ヲ自國ニ於テ供給シ得ルノ狀態ヲ作ラナケレバナラヌト云フ考ガ國ノ上下ヲ舉ツテ行ハルルコトナリ、政府ハ即チ率先シテ農業生産ヲ獎勵スルノ方法、國家的ナル工業生産ヲ盛ニシ、國內市場ヨリ外國品ヲ驅逐シテ更ニハ又外國資本ト技能トノ來ツテ國內ノ事業ヲ爲スヲ防ギ、國內ノ工業生産ハ十分ニ且ツ萬遍ナク行渡ツテ、何時如何ナル事變ガ起ツテ來テモ經濟的ニハ(特ニ物資ノ供給上ニハ)多ク苦マヌ狀況ヲ造リ上グルニ必要ナル政策ヲ施サントスルニ至ツタ。而シテ又之ヲ爲スガ爲メニ

ハ當ニ英本國ノミヲ眼中ニ置ク可キニアラズシテ廣ク其ノ領有スル各々におんニ涉ツテ一大連盟ヲ造リ、大帝國トシテノ濟共通ヲ計ツテ經濟的ニハ總テ之レ一體ヲ爲スモノト見ラルルニ至ラナケレバナラヌト考ヘラレルノデアツテ然カモ此事ハ加奈陀、濠太利、新西蘭等ニ於テモ翼賛セラレ、曾テちゑんばーれん一派ノ唱道セシ所ハ漸クニシテ實行ノ域ニ入ラントスルノ勢ヲ呈シ來ツタ。惟フニ斯ノ如キハ洵ニ之レ英國トシテハ政策上ノ一革命期ヲ爲スモノト云ハネバナラヌ。而シテ此ノ政策上ノ革新ハ唯ダ之レ今回ノ戰爭ニ對スル一時ノ急ニ應ゼムガ爲メノミデハナイノデアツテ、遠ク將來ヲ慮リ寧ロ主トシテ將來ノ爲メニ畫策セラルル所ノモノ却テ多キヲ見ル次第デアル。是レ即チ吾人ガ今ヤ英國經濟政策上ノ一革新期ノ來レリト爲ス所以デアル。

二 右述ブルガ如キ英國經濟政策上ノ變動ノ兆候ハ之ヲ諸多ノ事實ニ徴スルモ知リ得ラルル所デアルガ、尙ホ之ヲ首相あすきす氏以下諸多ノ

當局者ガ種々ノ機會ニ於テ發表聲明シタル所ニ照シ見ルモ頗ル明瞭ニ窺知スルコトガ出來ル。試ニ其ノ一例ニ就キテ見レバ、曩ニ下院ニ於テ Lewis 氏ガ、聯合軍ノ勢力ヲ増加スルガ爲ニ英國政府ハ英國ノ各どこみにおんガ本國ニ對シ十分ナル經濟的扶助ヲ與ヘ以テ聯合軍側ガ敵國ニ對シテ取リツツアル政略ヲ助ケ英帝國ノ全力ヲ舉ゲテ之ニ盡スヲ得ムガ爲メニ速ニ各どこみにおんト協商ヲ進ム可シト爲スノ動議ヲ提出シタル際、商務院長 Runciman 氏ノ爲シタル答辨演說ノ如キハ、太ダ以テ事情ヲ語リ又政府ノ決心ヲ示スニ要ヲ得タモノダト思フ、

氏ハ先ツ過去ノ狀態ニ就テ述ベテ曰ク、從來行ハレタル諸種ノ通商條約ハ多クハ英國ニ損害ヲ與ヘタモノデアアルガ彼ノ獨逸ノ最惠國條款ノ如キモ英國ニ取ツテハ都合好カラヌモノデアリ特ニ近年ニ於テ然ルモノガアツタ。獨逸ガ七八年ニ渉ル關稅戰爭ノ後漸クニ露西亞ト締結シタル條約ハ英國ニ取リテ殆ンド關係ノ無キ商品ニ就キテハ低キ關稅率ヲ與ヘ、英國ニ關係ノ密接

ナル商品ニハ隨分高イ關稅中ヲ適用スルガ如キ狀態ノ下ニ英國ヲシテ最惠國條款ノ恩惠ニ浴セシメタニ過ギヌ。ガ英吉利ハ今後ニ於テハ最早斯ノ如キ不利益ナル事情ノ下ニ在ルヲ忍ブ能ハザルモノデアツテ、露西亞ト雖トモ決シテ又斯ノ如クニシテ獨逸ノ道具ニ使ハルルコトハ之ヲ肯ゼナイデアラウ。何シロ獨逸兩國トノ通商條約ハ開戰ト共ニ消滅ニ歸シタモノデアアルカラ、今後ハ敢テ此ノ不利益ヲ忍ブノ必要ハナイト。

氏ハ所謂ラク、洵ニ今回ノ大戰爭ハ實ニ夥シキ損害ヲ交戰各國ニ與ヘタモノデアツテ、少數ノ中立國ハ戰爭ノ爲メニ頗ル利スル所ガアツタクレドモ、交戰國ニ至ツテハ其ノ創痍ハ恐ル可キモノデアリ、之ガ恢復ヲ見ル迄ニハ戰後永キ年月ヲ要スルデアラウ。而シテ幸ニ英國ハ他ノ何レノ交戰國ヨリモ其ノ創痍ヲ被ルコトモ少ク從テ之ガ恢復モ容易デアル可キデアアルガ、然シ尙ホ佛伊露ヲ扶助スルハ英國ノ義務デアリ、然モ獨逸ヲシテハ最も多大ナル損害ヲ負ハシメ其ノ恢復ノ最も困難ナルモノタラシメナクテハナ

ヲヌ。然リ而シテ獨逸ガ戰後恢復ヲ爲サントスルニ當ツテハ、爲メニ露佛伊及ビ英國ニ何等ノ損害ヲモ被ラシムルモノタラシメテハナラヌノデアツテ、其能ク之ヲ然ラシムルノ道ハ平和條約調印ノ後、再ビ又獨逸ガ英國及ビ他ノ聯合軍側ノ諸國ニ對シテ經濟戰爭ヲ開始スルヲ不可能ナラシムルノ外ニ存セナイノデアルト。

開戰以來獨逸ノ海外貿易販路ヲ獲略スルト云フコトハ英吉利商工業者ノ熱心ナル希望デアリ、又政府モ其事ノ爲メニハ種々ノ援助ヲ與ヘタノデアルガ、此事ハ實ハ云フニ易クシテ行フニ難イ所デアリ、英吉利ソレ自身ノ輸出貿易スラ開戰以來夥シキ減退ヲ來シタ程デアルカラ、他國ノ占ムル販路ヲ奪フ段デモナイノデアル。然シ南米ナドニ於テハ英國商人ハ可也ヨク機會ヲ利用シ大分獨逸品ノ販路ヲ奪ヒ得タモノガアル。兎モ角英國ガ之ヲ奪ヒ得ナイマデモ、獨逸ノ海外貿易販路ハ世界各方面ニ於テ今ヤ殆ンド完全ニ遮斷サレテシマツタノデアルカラ、英國タルト他國タルトヲ問ハズ此機ニ乗ジテ自國製

品ノ販路ヲ擴張シ、從來獨逸ノ占メ居タル繩張内ニ侵入スルコトハ力サヘアレバ餘リ困難デハナイ。此點ニ關シテハらんしまん氏モ虚心坦懷ノ説ヲ吐テ居ル。

仍テ翻テ英本國及ビ其各どみにおんニ於テ從來獨逸ノ手ヲ伸バシテ居ツタ有様ニ就テ見ルニ英國ニ於ケル眼鏡用硝子類ハ開戰前ハ殆ンド全ク獨逸品ノ爲メニ市場ヲ占領サレテシマツタ有様デアツタガ、開戰ト共ニ政府ハ先ツ第一ニ之ニ眼ヲ注キ保護獎勵大ニ努メタ結果トシテ、今ヤ眼鏡用硝子ハ立派ニ英國デ出來ル様ニナツテ來タ。而シテらんしまん氏ハ今後ハ永久ニ再ビ獨逸品ノ爲メニ其市場ヲ奪ヒ返サレ獨逸品ノ獨占ヲ見ルガ如キコトハアリ得ナイト信ズルト謂ツテ居ル。其他化學製品、染料、電氣機械等モ從來ハ殆ンド之ヲ獨逸品ノ全供給ニ待ツテ居タノダガ開戰以後當局ノ獎勵ト實際ノ必要ト從テ生ズル高價トハ大ニ其ノ英國内ニ於ケル生産ヲ可能ナラシメ又増加セシメタ。而シテ此等ノ事實ニ關シテ最モ注意ス可キハらんしまん氏ノ之

ヲ述ブルガ如ク、英國ハ唯ダ一時此ノ戰爭中ノ急ニ應ゼムガ爲ニ又獨逸ヲ經濟的ニモ征服セムガ爲メノミニ、此等ノ國產獎勵ヲ爲スモノデハナク、平和ノ具トシテモ戰爭ノ武器トシテモ、總テ此等ノ重要ナル貨物が英國内ニ於テ生産サルルト云フコトハ、實ニ是レ國家組織ノ一要件ヲ爲スモノデアルト見ナクレバナラズ、從テ此事ハ永久ナル國家の事業ト見ナクレバナラヌト云フ點之レデアル。即チ之レ取モ直サズ此種重要貨物ニ關スル國家的自給狀態ヲ造リ出サントスルモノデアツテ、タゞ從來ノ如ク「レッセー、フエール」デ押通スコトノ危險ヲ感ジ國家ノ保護指導ノ下ニ、偏局セザル纏リタル又整ヒタル國民經濟狀態ヲ造リ上ゲントスルニ至ツタ明カナル証左ヲ爲スモノデアル。而シテ之ニ關スル政府ノ保護指導ニ就テハ、らんしまん氏ハ政府ノ各部局ハ出來得ルダケノ事ヲ爲シ又更ニ多クヲ爲サント決心セルモノナルヲ告ゲ、然モ之ハ他方各個人ノ奮發努力ト相待タネバナラスト云フコトヲ力説シテ居ル。兎モ角英國ノ態度ガ

現時及ビ將來ニ對シテ斯ノ如ク變化シ來リ、後レ走セ乍ラ敢テ獨逸其他ノ聲ニ倣ヒ經濟上ニ於ケル國家主義ヲ建設確立セムトスルニ至ツタコトハ之ニ依ツテモ知ルコトガ出來、之ガ一時應急ノ策タラズ永久の政策タラザル可ラズト、政府當局者ノ一人ニ依リテ高唱主張セラレルノハ、頗ル面白イ現象ト云ハネバナラヌ。

三 凡テ右等ノ目的ヲ達セムガ爲メニハ英國ノ事業界ハ今少シク enterprising デナクレバナラヌ次第デ、特ニ商工企業ト金融トノ連絡關係ヲ今少シク密接ナラシムルコトハ當面ノ必要デアル。ソコデらんしまん氏ハ現下ノ必要ト將來ノ希望トヲ滿ス上ニ於テ根本的ニ其ノ事業ヲ爲サシガ爲メニハ、先ヅ以テ諸種ノ研究の方法ヲ改善スルト同時ニ青年者ノ習練及ビ一般國民ノ教育ヲ十分ニ且ツ有效ナラシムルヲ要シ、現ニ各種ノ技術ヲ教ユル學校ヤ近世科學ノ應用ノ爲メニ設ケラレタル設備ニ對シテ使用シツツアル金ハ決シテ之ヲ各ムデバナラスト述べ、次ニハ又英國ガ從來占メ來リタル地位ヲ保チ得ムガ爲メ

ニハ英國國民タルモノハ今少シク適應性ヲ養ハナ
ケレバナラス。從來ハ英國人ハ事情ニ對スル適
應性ヲ缺クト云フコトガ一ノ國民性ヲ爲スカノ
如ク考ヘラレテ居タケレドモ、今ヤ世界ノ事情
ハ一變シ、通商貿易ニ關スル諸般ノ事情モ亦甚
シク變化シテ來タノデアルカラ、此ノ新タナル
事情ニ適合適應スルコトガ出來ナクテハ成功ハ
覺束ナイ、此點ハ英國ノ商工業者ハ特ニ注意シ
ナケレバナラス點ダト說テ居ル。

次ニ最重要ナル點トシテハ、英國ノ銀行業者ガ
從來ノ保守的態度ヲ改メテ今少シク進取のナル
ニ至ルヤウ之ヲ鞭撻スルノ必要ナルコト之デア
ル。英國ノ商工業ヲシテ今後世界ニ雄飛セシ
メ少クトモ獨逸ナドガ之ヲ行ヒツツアル所ノモ
ノノ爲ニ凌駕サルナカラントセバ、銀行業者
ガ、新ニ起リ未ダ地盤ノ鞏固ナラザル商工上ノ
若キ事業ヲ扶ケ、之等ヲシテ能ク其地歩ヲ固メ
シムル所ガナクテハナラス。斯クテらんしまん
氏ハ近者英國ノ大株式銀行ガ漸次ニ小銀行ヲ併
吞シ、爲メニ從來英國商工業繁榮ノ骨髓タリシ

所ノモノ即チ個人的銀行ト個人的商工業者トノ
間ニ存シタル緊密ナル連絡關係ヲ弛廢セシムル
ニ至リツツアルノ傾向ニ就テ歎イテ居ル。英國
ノ大株式銀行ハ其ノ組織ニ於テハ比敵ナキモノ
デアルガ、ソガ唯ダ獨リ倫敦ニ集中シテ地方ノ
商工中心地ニハ僅カニ支店ヲ設ケ支配人ヲ置ク
ニ過ギザルガ爲メニ、英國ノ商工業者ガ、獨逸ノ
商工業者ノ如ク全國何レノ所ニ於テモ金融業者
ト密接ナル關係ヲ有シ兩々相扶ケテ事業發展ニ
努ムルノ便宜ヲ有スルガ如クナルヲ得ザルコト
ハ、洵ニ大イナル不便ト云ハネバナラス。而シテ
獨逸ノ銀行業者ハ頗ル enterprising デアツテ或
ハ adventurous デアルト謂ツテモ可イ程デア
ルノダカラ、英國ニ在リテモ亦將來ニ於テ更ニ多
クヲ爲スアラントセバ、銀行業者ハ今少シク進
取のデ adventurous デナクテハナラストセラレ
ルノデアル。

尙又特許法等ニ於テモ英國ハ今後改善ヲ要スル
モノアリト述ベラレテ居ル。

右らんしまん氏ガ英國ニ就テ道破セル所ハ、取

テ以テ頗ル我國ノ殷鑑ト爲ス可キモノアリト吾人ハ思フ。我國ノ商工業ヲシテ今少シク根抵アルモノタラシメ、今日及ビ今後ニ於テ十分堅固ナル基礎ノ上ニ健實ナル發達ヲ遂ゲシメ、將來世界ニ雄飛スルノ地歩ヲ造ラシメンガ爲メニハ吾人ハ曾テ本誌上ニ之ヲ論ジタルガ如ク、先ヅ第一ニハ製造工業ニ關スル科學的并ビニ技術的研究ヲ盛ニ又有效ニシ、學問ト技術トノ連絡ヲ緊密ニシ、學問ノ方面ト技術ノ方面ト双方ヨリシテ互ニ勵キ掛ケテ茲ニ常ニ新タナル研究的效果ヲ上グルニ努ムルコト獨逸ニ於テ之ヲ見ルガ如クデナクテハナラヌ必要ガアルト思フ。殊ニハ我國ノ如ク天然ノ富源ニ乏シク今後ノ發達ハ專ラ之ヲ人ノ力即チ腦ト手ノ勵ニ待タネバナラヌ國ニ於テ特ニ其ノ必要切ナルモノアルヲ思ハザルヲ得ヌ次第デアル。次ニ又商工企業ト金融トノ連絡ノ事モ吾人ノ之ヲ論ジタルガ如ク、我國現下ノ實狀ニ於テ最モ其ノ緊密ナランコトヲ必要トスルノデアツテ、英國ニ於テ其ノ必要ナルヨリモ更ニ一層我國ニ於テ必要ナルヲ否ムコ

トガ出來ヌ。我國ノ銀行業モ銀行業ソレ自身トシテ見レバ今ヤ太ダ發達セル狀態ニ達シ得タルデアルカラ、今後ハ銀行業者タル者ガ今少シク進取のニ或ハらんしまん氏ノ所謂 adventurous ニナツテ、商工企業ヲ扶ケ幼稚ナル我が商工業界ニ血液ヲ送り之ヲシテ能ク成育スルヲ得セシムルヲ要務トスル。タダ預金ト貸金ノ利鞘ヲ獲ルヲ以テ満足シ、只管安全ニ手堅クノミ遣ツテ行ケバ、ソレデ銀行業者ノ任務ハ終レリト爲ス可キモノデハナイ。金融業者ハ國民經濟全體トシテノ有機的一個體ノ血液ノ循環ヲ司ル機關デアルカラ、常ニ國民經濟全體ノ發育ト云フコトニ心掛ケナクテハナラヌ。此點ニ關シテハ獨逸ノ金融業者ニ學ブ可キ所(避ク可ク戒ム可キ所モ勿論有ルガ)渺カラズト信ゼヨル。要スルニ此等ノ問題ニ關シテ吾人ガ曩ニ我國ニ就テ述ベタ所トらんしまん氏ガ英國ニ就テ述ブル所ト、符節ヲ合スルガ如キモノアルハ、吾人ノ頗ル愉快トスル所デアル。

四 最後ニ、らんしまん氏ハ英國今後ニ於ケル

農商工業ノ國家的組織ヲ造ルニ就テハ各ごみに
おんトノ連結ト相互補助ノ必要ナルヲ考ヘ、母
國ト各ごみにおんトヲ打テ一丸ト爲セル一ノ帝
國トシテノ經濟組織ヲ造リ上グルニ努メナケレ
バナラヌト云フ事ニ就テ思フ凝シテ居ル。而シ
テ先ヅ現下ノ問題トシテ之ヲ原料品ニ就テ見ル
ニ、近年鐵產物ノ如キハ其ノ支配權ハ獨逸ニ移
リ、英國ノ各ごみにおんニ於ケル鑛產ニ對スル
Frankfurt a. m. ノ勢力ハ強大ナモノデアツテ、
濠太利ノ如キ最モ其ノ勢力ヲ感ジテ居タノデア
ル。然ルニ開戰後ニ在テハ英國ニ於ケル必要
ト努力ト各ごみにおんノ忠義心トハ相結ビテ之
等ニ關スル事情ノ恢復ヲ來タシ、今ヤ母國ハ印
度ノ manganese あんちびですヨリノ tungsten
及 wolfram 濠太利ヨリノ大量ノ zinc 及 spelter 加
奈陀ヨリノ nickel 等ニ就キ十分ナル支配權ヲ掌
握スルニ至ツタ。今後ハ石油ニ就テ之ガ支配ヲ
爲スヲ得ルニ努メナケレバナラヌトハらんしま
ん氏ノ述ブル所デアル。次ニ又羊毛 (wool and
merino) 小麥、冷藏肉等ニ關シテモ今ヤ母國ト

濠太利トノ間ニハ完全ナル合意ガ行ハレ、之等
ノモノガ獨逸ニ輸入サレルヲ絶對的ニ防止シ、
先ヅ帝國內ノ需要ヲ充サムガ爲メニ留保サレル
コトニナツタ次第デアツテ、凡テ此種ノ點ニ關
シ、英國ノ帝國的結合ハ開戰以來頗ル堅固トナ
リ其ノ組織モ着々完備セラレントスルノデア
ル。ソシテ注意ス可キハ此等ノコトガ唯ダ戰時
中ノ必要ノ爲メニセラルルノデナク、戰後モ引
續イテ、即チ今後立國ノ大方針トシテ、行ハル
可、モノナリトセラレル點デアル。

尙ホらんしまん氏ハ航海上ノ問題ニ就テモ意
見ヲ發表シテ居リ、英國ノ航海上ノ利益ノ爲メ
ニ他國ノ利益特ニ獨逸ノ利益ヲ排斥スルニ就テ
ノ一般の方略及ビ諸種ノ實際的手段ニ關シテモ
立入ツタ議論ヲシテ居ルノデアツテ、此等ノ事
ノ爲メニ彼ノ Navigation Act ノ如キモノヲ布
ク可シトノ議論ニモ觸レテ論ジテ居ル。吾人ハ
今其ノ一々ニ就テ述ブルノ煩ヲ避クルデアラウ
ガ、總テ問題毎ニ國家主義の主張ノ表ハレテ來、
自國ノ利益ノ爲メニ自國ノ利益ヲ護リ、國家的

若クハ帝國のナル經濟組織ヲ造リ上ゲントスルノ方針ヲ確立シナクテハナラヌトスル意見ガ、今ヤ殆ンド議論ヲ用ヒズシテ贊成セラレムトスルノ勢ヲ呈シ來ツタコトハ之ヲ見遁シテハナラヌ所デアアル。らんしまん氏ノ演說ハ偶々ソノ一致セル意見ノ説明ニ過ギヌノデアアル。

五 要スルニ今ヤ英國ノ貿易政策引イテハ一般經濟政策ハ、將ニ一變轉ヲ爲ス可キ時期ヲ迎ヘタノデアツテ、流石頑固ノ英國モ必要ノ前ニハ叩頭セザルヲ得ナイ。惟フニ此ノ變轉ノ勢ノ馴致セラレタノハ元ヨリ開戰以前ヨリノコトデアアルガ、然モ其ノ終ニ實現ノ域ニ入ラザルヲ得ザルニ至ツタノハ全ク今回ノ大戰ノオ蔭デアツテ、一昨年八月開戰後間モナク、歐大陸ヨリノ甜菜糖ノ供給杜絶サレ國內ニ於ケル砂糖ノ大缺乏ヲ來シ價格ノ大騰貴ヲ惹起シ一般消費者ノ恐慌ヲ來サントシタ際ニ、政府ハ機ヲ逸セズ瓜哇其他ノ甘蔗糖ヲ輸入シテ其急ヲ救フタ事ナドガ抑モ事ノ始リデ、其後ハ着々トシテ臨機ノ處置ヲ取リ、又政治家ヤ一般國民ノ考モ其間ニ大ニ

纏リ來ツテ、今日ト爲ツテハ經濟政策上ニ於ケル大體ノ方針ハ頗ル以テ變轉シ來ツタノデアアル。而シテ其ノ變轉タルヤ今一度後戻リヲスルコトハアルマイト考ヘラレル。

察スルニ戰終ツテ敵味方ノ間ニ再ビ通商條約ノ締結サレルニ當ツテハ、英國ノ此ノ轉換セル方針ハ明瞭ニ他國ニ向ツテモ表明セラレルニ至ルデアラウ。らんしまん氏ガ戰後ノ通商條約ニ於テハ獨逸ガ再ビ英國其他ニ向ツテ經濟戰ヲ開始スルヲ得ザラシメナクテハナラヌ獨逸ノ利益ノ爲メニ他國ノ利益ガ犠牲ニセラレル様ナコトガアツテハナラヌト道破シタ所ハ、決シテ之レ氏一個ノ希望デハナイノデアツテ、英帝國ノ政府ハ既ニ斯ノ如ク臍ヲ固メタノデアアル。之ヲ最近ノ電報(三月三日倫敦發)ニ徴スルモ『英佛露伊ハ近々攻守兩様ノ商業同盟ヲ締結シ今後相互ノ承諾ナクシテ獨逸ト商業上ノ條約ヲ結バザル可キ旨契約ス可シト信ゼラル』トアル。潮ハ既ニ滿チ來リツツアルヲ告グルモノデハアルマイカ。

事情斯ノ如クデアアルカラシテ、戰後ニ於ケル

3) 三月六日大阪朝日新聞特電。——經濟同盟ノコトハ其後大ニ話が進ムデ來タ様
 我國カラモ大使ヲ特派スルト傳ヘラルルニ至ツタ。其ノ人選モ最早大抵出來
 タ様デアアル。(三月二十二日校正ノ際附記)

各國間ノ貿易上ニ於ケル鬭爭ハ從前ヨリモ更ニ更ニ激烈ヲ加フ可キハ之ヲ疑フ可キデナイ。獨逸トテモ唯ダ壓迫セラレルガ儘ニ默シテ己ム可キ者デハナク、其ノ伸ビントスル手ハ之ヲ束ヌルニ困難ナルモノデアルカラ、必ズヤ捲土重來ノ勢ヲ以テ世界市場ニ覇ヲ爭ハント奮勵力戦ス可キハ明カデアル。斯クテハ即チ眠ラントシタル獅子モ競ヒ立チ北方ノ熊ヤ其他ト聯盟シテ戰場ニ臨マントシ、中歐ノ猛鷲ハ又渾身ノ死力ヲ盡シテ爭ハントスルノデアルカラ、世界貿易市場ハ所詮一大修羅場ト化セザルヲ得ザル次第デアル。此時ニ當ツテ我邦人タルモノ亦唯ダ徒ラニ袖手シテ他人ノ爲ス所ヲ傍觀ス可キデハナク、現ニ戰時中ニ擴ゲ得タル貿易上ノ繩張ハ飽迄之ヲ確保ス可キノミナラズ、更ニ廣ク之ヲ押擴ゲナクテハナラヌノデアルカラ、其謀ハ今ヨリシテ之ヲ爲スニアラズンバ必ズヤ大イナル不覺ヲ取ルデアラウ。各強大國ハ殆ンド例外ナク保護政策ニ依ル經濟ノ國家的組織ヲ造リ上グントセル中ニ在ツテ、獨リ英吉利ガ自由主義ヲ執

テ動カザリシモノ、今ヤ漸ク其固執ヲ捨テテ一般ノ例ニ倣ハントスルノデアルカラ、今後ハ同ジ主義同ジ方針ニ據ル者ノ併立トナツテ、然モ各其力ヲ外ニ伸ベテ帝國の經營ヲ爲サントスルコトトナレバ、其間ノ鬭爭ハ從來ヨリモ更ニ一層露骨トナラザルヲ得ヌ。

何レニシテモ此度ノ大戰ハ經濟關係ニ於テモ必ズヤ大イナル變革ヲ伴ヒ來ルモノデアツテ、事ヤ獨リ英吉利ニ關スルノミデナイノデアルカラ、我が國家ト國民トハ今ニシテ大イナル覺悟ヲ極メテ經濟政策上ノ大方針ヲ確立シ、而シテ之ヲ貫クニ必要ナル實力ヲ養フニ怠ツテハナラヌ次第デアル。一日ヲ忽ニスレバ即チ一日ノ損アルヲ思ハナクテハナラヌ。元來帝國主義ナルモノハ其ノ根柢ニ於テ經濟上ノ國家的組織、換言スレバ其ノ自給主義ト云フコトヲ包含シ、然カモ尙ホ外ニ向ツテハ政治的及ビ軍事的經營ト相並ムデ經濟的經營ヲ行フモノデアルカラ、今日ノ勢ハ即チ之レ帝國主義ガ其ノ徹底ヲ期スルノ勢デアリ、特ニ其ノ經濟方面ヲ高潮セムトス

ルノ勢デアル。由來英國ノ帝國主義ハ變則ノモノデアツタガ、今ヤ轉ジテ本則通リノモノタラントスルモ云ヒ得ラレルノデアツテ、今後ハ即チ世界ヲ舉ゲテノ帝國主義的國家競爭ガ從前ヨリモ一層ノ精力ヲ傾ケテ行ハレントスルモノト云フ可キデアル。而シテ其ノ經濟的方面ノ更ニ重要ヲ加ヘントスルコトハ最モ注意ヲ要スル所デアル。吾人ハ我邦今日以後ノ努力ガ此ノ大イナル風潮ニ從テ行ハレントヲ希望シ、且ツ好ムト好マザルトニ拘ラズ之ヲ爲ス必ズヤ斯ノ如クナラザル可ラザル時勢ノ必要ニ迫ラレ居ルヲ信ズル者デアル。(三月七日稿)